



医師会 健康講座

妊娠中のエコー（超音波）検査について

寿レディースクリニック（寿町） 萩山 正治

産婦人科では妊娠から出産までエコー検査のお世話になります。エコーは、簡便・安全で胎児や子宮内の様子について多くの情報を与えてくれます。エコーには経腹エコー・経膈エコーがあり、また、カラードップラー・3D・4Dなどの機能が付いていてこれらを組み合わせて診断に使います。

【妊娠確定までの3ステップ】

市販の妊娠検査薬で陽性でも通常の妊娠かどうかは、エコー検査によって次のことを確認します。

- ① ベビーの入っている袋（胎嚢）が、子宮内の正しい位置にあるか
- ② 胎嚢の中に胎芽という小さいベビーの確認（妊娠7週頃）
- ③ 胎児心拍の確認

①〜③までが確認できれば、妊娠確定です。この時出産予定日を決めますが、最終月経や排卵日から計算する方法に加えて、エコーによって、胎児の頭殿長を測定して、より正確な予定日を決定します。健診時にはエコーを使って、毎回、胎児心音の確認をします。エコー検査には、妊婦健診時に行

われる通常検査と、胎児の形態異常診断を目的とした胎児エコー検査の二つがあります。

1. 通常エコー検査

- イ. 妊娠初期（妊娠2ヵ月から4ヵ月）
異所性妊娠（子宮外妊娠など）
子宮内胎児死亡、胎状奇胎などの異常妊娠の有無をみます。

胎児数の確認と双子の場合は膜性診断で、一卵性か二卵性などの診断をします。子宮筋腫や付属器腫瘍（卵巣腫瘍など）の有無をみて、腫瘍が見つかった場合は良性か悪性かを診断します。卵巣腫瘍の直径が5cm以内の時は、80%が黄体嚢胞などの良性の機能的嚢胞であり、妊娠16週までに、自然消失します。直径が10cmを超えると破裂の可能性もあり、妊娠中でも手術を勧められることが多く、また悪性の場合は妊娠週数や大きさにかかわらず原則として手術となります。切迫流産による出血は、胎児心拍が確認できれば、90%以上が無事に育つことが分ってきました。妊娠12週までの胎児死亡の多くは、染色体異常が原因です。

口. 妊娠中期（妊娠5ヵ月から7ヵ月）
胎児発育の評価は、エコーで見頭大横径・大腿骨長で成長曲線をみます。つわりを乗り切った胎児はぐんぐん成長し、妊娠5ヵ月で胎児は身長15cm、体重300gとなり、エコーの4D機能で羊水の中を活発に運動している様子が見られ、妊婦さんも我が子の成長を実感することができます。一般的には妊娠6ヵ月までに、胎動も感じられるようになります。

妊娠6ヵ月からは、胎児の推定体重を毎回測定して標準値と比較し、子宮内胎児発育不全（未熟児）の有無をチェックします。また、経膈エコーによる子宮頸管長の測定を妊娠20週頃に測定し、短縮している場合は早産のリスクが高まりますので、早産予防の治療が必要になる場合があります。

- ハ. 妊娠後期（8ヵ月〜10ヵ月）
妊娠8ヵ月で胎児は体重約1kg身長約35cmほどになり味覚が発達し甘味や苦みがわかってきます。また、聴覚が発達して外の音に反応するようになります。胎盤の位

置を確認し、前置胎盤・低置胎盤の異常や羊水量の測定をします。そして、羊水過多症の場合、胎児の消化管の異常をチェックします。胎児の胎向をみて逆子や横位などを診断します。分娩時の異常出血の時に、エコー検査で常位胎盤早期剥離や低位胎盤などの異常をチェックします。胎児心音の低下の時、カラードップラーで、臍帯巻絡の有無を検査するなど、出産までエコーのお世話になります。

2. 胎児エコー検査

出生前診断の1つでインフォームドコンセントの後に、実施する必要があります。通常のエコー検査でも、胎児に異常が見つかることがあり、この場合は高次施設へ紹介します。

妊娠から出産まではマラソンにたとえるとスタートからゴールまでの長い道のりです。産科医は、妊婦さん全員が無事ゴールできますよう定期的な妊婦健診を行って、安産のお手伝いを支援していきます。



4Dエコー
12週胎児